



希望のケルン

平成29年7月10日発行
藤沢町住民自治協議会
〒029-3405
一関市藤沢町藤沢字仁郷 12-5
電話:63-5515 Fax:63-5517
Mail: fujino@dontokoi-f.com
ホームページ URL: <https://dontokoi-f.com/>

第4回理事会で視察研修の日程が決まる

藤沢町住民自治協議会では6月28日(水)に藤沢市民センターで第4回理事会を開催し、視察研修の日程等が決定した。理事会では今年度事業の経過報告が事務局からなされた後、下記の議案が提出され、原案の通り決定された。

承認第1号 藤沢地域生徒指導連絡協議会構成員の推薦について
会長、副会長の4名を推薦

議案第1号 みんなで支え合い事業(県立大学との地域協働研究)の視察研修について
目的 住民による地域づくりの取り組み
視察先 長野県松本市「寿地区地域づくり協議会」
実施予定日 7月27日(木)~28日(金)

議案第2号 自治会長等視察研修について
目的: 高齢者見守りと支え合い活動の取り組み
視察先: 山形県酒田市
実施予定日 9月1日(金)~2日(土)

理事会終了後、総務・産業・教育民生の3部会が各々開かれ、今後の進め方について協議した。今年度は県立大学との地域協働研究事業の成果を見据えながら、各部会で話し合いを進めていく。



県立大学との地域協働研究 第2回住民ワークショップを開催

藤沢町住民自治協議会では、岩手県立大学との地域協働研究事業として佐藤哲郎准教授の指導のもと、7月1日(土)に藤沢市民センター視聴覚室で、第2回住民ワークショップ「地域の宝(ひと・もの・活動・事業)を地域づくりへ“つなぎ・活かす”」をテーマに開催した。

各地区協議会や団体から推薦された参加者に、藤沢支所の「ふじまち戦略チーム」が加わり、5つのグループに分かれて、活発な話し合いが行われた。

まとめとしてグループ毎の内容発表では、「敬老会と子供会活動を結びつけてみると、世代間交流事業として新たな取り組みができるのではないか」などが出された。自治会や地域で行っている活動(事業)の中で、個別だったもの同士を結びつけていくと、新たな事業にできることを参加者全員で理解し、共有することができた。



グループの話し合いの様子

千田会長は「少子化・高齢化社会が進む中、ワークショップを通して出てきた事柄を、今後の自治会活動や協議会の事業計画に取り入れて、より良い地域づくりに活かしていきたい」と話された。

このワークショップの内容は市民センターロビーに掲示される。
また、第3回ワークショップは8月上旬開催の予定です。

「次世代プロジェクト2017」が、始動

藤沢中学校生徒による「次世代プロジェクト2017」（主催：藤沢町住民自治協議会）は、6月30日（金）に藤沢中学校会議室で、新メンバーで始動した。

この事業は「藤沢中学校生徒が考える、持続可能な“ふじさわの地域づくり”」をテーマに、昨年度より行なわれている。今年度は県立大学の佐藤哲郎准教授の協力を得て、ワークショップが進められる。

鈴木校長先生から「中学生はこれから20年30年先の“未来”を考えることができる」と激励され、ワークショップが始まった。この事業の成果は、今年度の「地域づくりフォーラム」の中で発表される。



今年度のプロジェクトメンバー

ビューティフル藤沢整備事業 各自治会で花壇づくり

平成29年度ビューティフル藤沢事業に伴い6月23（金）日から自治会に配布された花苗は、6月24・25日に各自治会の花壇に植えられた。11区では早朝から自治会の皆さんが花壇に集合し、花苗を植えていた。



右：花を植える11区

今年度の一関市花いっぱいコンクールの審査日程は下記の通りです。

○地区協議会の審査 7月下旬までに協議会へ提出

○藤沢地域審査 8月上旬に予定

第72回生活物資リサイクル集団回収事業始まる

第72回生活物資リサイクル集団回収事業は7月2日（日）藤沢地区（藤沢文化センター駐車場）からスタートした。開始時には雨も上がり、各自治会から集められたリサイクル物資には影響もなく、無事に回収作業が行われた。

リサイクル集団回収事業で得られた収益金は、各自治会の活動資金に充てられます。今後ともリサイクル集団回収にご協力をお願いします。



左：物資を積み込む藤沢地区



徳田地区で「ホタル鑑賞会」

農地・水環境徳田地区活動組織は徳田地区自治会協議会と共催で6月24日（土）午後7時30分から「ホタル鑑賞会」を行った。徳田地区では7年ほど前から地域の環境保全活動として、「源氏ボタルの里」づくりをしている。

当日は徳田交流館には、「源氏ボタル」を見ようと100名以上の子どもたちや父兄が集まった。

その後生息地まで徒歩で向い、大人も子どもたちも源氏ボタルの飛び交う様子を見て、歓声を上げていた。

徳田交流館に戻った参加者は主催者が用意した「お楽しみ参加賞」の抽選会が行われた。

主催者は、「これからも源氏ボタルの住む環境を維持していきたい」と話された。



源氏ボタルを鑑賞する参加者



参加賞を受け取る子どもたち